

4. 取得の日程

(1) 土地取得	2025年5月19日
(2) 着工	2025年度下期中（予定）
(3) 竣工	2028年4月（予定） 新工場竣工後、水産用配合飼料の製造を知多工場より順次移管いたします。 なお、知多工場における畜産用配合飼料の製造は継続いたします。

5. 今後の見通し

本取得に伴う2026年3月期の業績に与える影響は軽微であります。

なお、今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以上

日本の養殖業の課題

養殖業をとりまく急激な環境変化
配合飼料に対するニーズの多様化

海水温上昇



- 生育不良・疾病増加
- 養殖適地の変化
- 養殖形態の変化
(陸上養殖・沖合養殖等)

天然資源枯渇



- 主原料である魚粉の高騰、供給不安
- 天然魚減少による養殖魚の需要拡大

フィード・ワンが目指す水産飼料事業

2拠点生産体制による供給力・BCP対策／次世代養殖の実現で美味しい魚を食卓に届け続ける



養殖業におけるサステナビリティの追求

- 🏠 ニーズに対応した先進的飼料の開発
- 🏠 新たな価値を生み出す原料の開拓
- 🧠 新規飼養管理技術の確立と提案
- 🐟 鮮度だけでなく水産物の価値創出

養殖魚の安定生産に
無魚粉飼料
の普及

養殖魚の健康維持に
昆虫タンパク
の有効活用

弾力性EP/極小口径 等
新形態飼料
の開発

日本の食に新提案
新魚種用
飼料の開発

新工場の役割

市場ニーズに合わせた専用飼料の製造に加え、製造能力増強・効率化を実現

研究開発型工場



最新製造設備により多様化するニーズをカタチ(配合飼料)にできる

製造能力拡大



製造能力が知多工場(水産)の2倍。増設スペースも確保

製造効率化



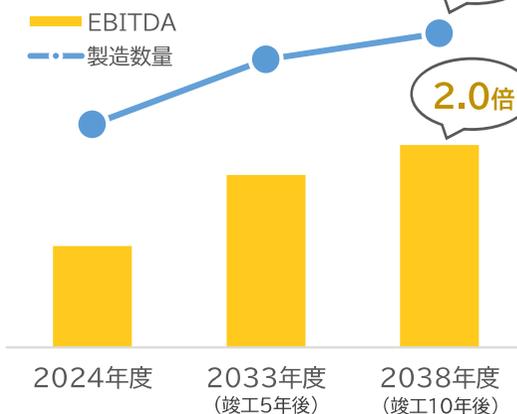
燃料費率▲15%、労務費率▲50%を見込む(知多工場対比)

立地の優位性



養殖適地の変化にも対応でき、全国の養殖地をカバーしやすい立地

水産飼料事業の長期ビジョン



※倍率は2024年度対比